



スーパー グローバル ハイスクール

佐高 SGH通信 2017

No. 49 (平成30年3月13日発行)

平成29年度

「海外グローバル研修」課題研究発表コンテスト開催

2月24日(土)に、平成29年度「海外グローバル研修」課題研究発表コンテストを開催しました。1年生全員が今年度取り組んだ課題研究の中から、カナダで発表する研究内容を選び、海外グローバル研修参加者が本校生を代表して発表(紹介)しました。本コンテストで優勝した班は研修先(カナダ)のプリンスエドワード大学で発表します。

～結果～

1位 6班：小学生の放課後学習の現状とこれから (Providing Learning Opportunities for Children by High School Students)

メンバー：新井 康平、葛貫 千絵、茂木 愛唯、中村 優那、鈴木 陽大



近年、貧困と学力の関連が指摘されている。また、学歴が依然として就職など人生に大きな影響を与えているのも事実である。そんな現状において、生まれ育つ家庭によって、学力、そして人生が影響されるのは子供たちにとって、とても不平等だと感じる。この現状の解決のため、私たちはフィールドワークを通して、高校生に何かできることはないのか?と考えた。そして、その解決策として、高校生による学習支援を提案する。

2位 8班：小学生のための心の教育 (Self-Esteem Education for Elementary School Students)

メンバー：澁江 陽菜、大門 尚之将、松澤 あさひ、渡来 遊夢、清水 楓菜、有澤 音羽



自己肯定感とは人生の土台であり心の安定のため、グローバル化が進むこの時代を生き抜くためにも必要である。私たちは日本の若者の自己肯定感の低さが問題であると考え、自己肯定感を高めるために心の教育が必要であると考えた。そこで小学校で出前授業を行い、その結果心の教育で達成感を得られることが分かった。よって心の教育は自己肯定感を高めることに繋がると考えられる。心の教育は前向きで積極的な、自己肯定感の高い子供を育ててくれるだろう。

3位 2班：「意外な地域資源」で地域を活性化 (Stimulate the Region's Economy with Unexpected Resources)

メンバー：安生 温大、坂井 里衣、須藤 彩、長島 旭、岡部 未来



現在、佐野市の経済は悪化している。その解決策として、私たちはカンロについて研究した。現在、カンロは人気がない。その消費を拡大すれば、経済が良くなると思ったからだ。佐野高校および同附属中学校でのアンケートを通して、カンロは若者に人気がないことが分かった。そこで、若者にも喜ばれるソースの開発をした。佐野市市民活動センターで行ったフィールドワークにより、新しく作ったソースは外国人の方の支持も得られることが分かった。その販売によって佐野市の経済を回復させることを提案する。

特別賞 5班：スポーツで地域活性化

(Local Revitalization with Sports)

メンバー：江口 萌々、荻野 峻右、金子 明日美、佐藤 望遥、岩永 光矢



現在日本では、人口減少が進み、地方自治体の活気が失われてきている。私たちは、栃木ウーヴァ FC がその課題の解決に一役買ってくれるのではないかと思い研究をした。栃木ウーヴァ FC とは、県南地区で活動しているサッカーチームである。カナダでは、アイスホッケーというスポーツが大きな観光資源となっている。現状では、知名度が低い、様々な工夫をすることでサッカーというスポーツも観光資源になるのではないかと考えている。

《Best Presenter を受賞した新井くんと、優勝した6班の全員の感想》※一部抜粋

英語でのプレゼンテーションは初めてのことでとても緊張した。しかしその分、得られたものも多かったと思う。今回、学んだこと、反省点を今後、しっかり生かしていきたい。

(Best Presenter 新井 康平)

文化会館での発表の前日に劇を始めたり、当日に台詞が増えた人がいたりと直前まで試行錯誤を繰り返してできた発表でした。練習・本番を通して自分に自信がつき、良い経験となりました。UBCでは、今回よりも英語力・プレゼン力を上げた状態でプレゼンができるように練習を重ねたいと思います。

(葛貫 千絵)

前日まで、夜遅くまで練習したりと、大変なこともありましたが、本番では練習成果を発揮し、念願の1位をとることができて嬉しかったです。これから、プリティッシュコロンビア大学での発表に向けて、代表として恥じないように頑張っていきたいです。

(茂木 愛唯)

発表まで、班のメンバー全員でどうしたらより良い発表になるのかを考えて、協力して良い発表を作り上げることができてとても良かったです。私たちの班はプリティッシュコロンビア大学で大学生に発表するので、もっと上手にプレゼンできるように改善したいです。

(中村 優那)

今回発表に向けてどのように英語を話せば相手に伝わるかということも多く学んだ。ジェスチャーや話し方の抑揚をつけて、かつ英文を覚えるのはとても大変だったが、実際にカナダでも使えると思うので良かった。

(鈴木 陽大)

《Excellent Presenter を受賞した生徒の感想》※一部抜粋

Excellent Presenter という素晴らしい賞をいただいて本当に嬉しいです。発表するテーマを決めてから何度も作り直し、修正し、練習してきました。その成果があらわれた発表だったと思います。

(8班 松澤 あさひ)

練習をする中で、「伝えよう」という意識を持って発表することを心がけました。Excellent Presenter に選ばれたことは、私にとってとても大きな自信となりました。

(2班 須藤彩)

自分たちの班は、発表内容が二転三転し、なかなか決まらず一番遅れていたが、何とか仕上げ発表も大成功に終わることができました。これも急な変更に対応くださった先生方や、何よりチームメイトのお陰です。本当に感謝しています。

(5班 荻野 峻右)

リハーサルは欠席が多く、とても不安でしたが、当日は「笑顔で楽しもう！」という目標をもって、初めて全員そろった発表を大成功させることができました。惜しくも班での表彰はなかったのですが、Excellent Presenter になれたのは一緒に頑張ってくれた班員のおかげです。

(1班 古橋 愛唯)

大勢の観客たちの前で発表したことによって、伝える技術と度胸を手に入れることができました。カナダでの発表も頑張ります。

(3班 杉江 悟)

今回の課題研究発表コンテストで人生で初めてスペイン語を話しました。最初はかたことどこから始めれば良いのか分かりませんでした。片柳先生や同じ班員のサポートで成功させることができました。

(4班 須藤 聖奈)

今回、コツコツと練習してきた成果を出し切ることができ、それが、Excellent Presenter という結果につながったことをとても嬉しく思います。国際教養大学の学長さんのお言葉に刺激を受けました。“Study hard”。今後も何事にも全力を尽くしていきたいです。

(7班 大芦 さくら)

《審査委員長の講評》

世界の有名大学で指導した経験があるが、そうした学生と比べても引けを取らない素晴らしい発表だった。全ての班に賞を与えても良いと思える内容である。

(国際教養大学学長 鈴木典比古先生)